

講義科目名称： 老年看護学特別演習Ⅱ

授業コード： 6630700600

英文科目名称： Seminar of Gerontological NursingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2学年	2単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎原等子、小長谷百絵、岡村毅、松田修、田中美紀、高橋由貴子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間		
	【担当教員】			
	【氏名】 ス	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎原 等子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	303	naohara@niigata-
	小長谷 百絵 konagaya@niigata-cn.ac.jp	同上	213	
	岡村 毅	東京都健康長寿医療センター研究所		
	田中 美紀	(社)認知症の人と家族の会新潟県支部		
	高橋由貴子	内田病院		
	山上徹也	群馬大学大学院保健学研究科		
	【本学の科目区分】 専門分野			
【D P 1】 【D P 2】 【D P 3】 【D P 4】 【D P 5】 【D P 6】 ○ ◎ ○ ◎ ◎				

到達目標	1. 認知症の疫学、最新の診断と治療・療法に関する知見を説明できる。 2. 認知症に関連する多様なアセスメント方法を学修し、認知症の進行抑止、行動障害の予防・緩和ならびに発症から死に至るまでの心身の回復や安寧に貢献する看護実践、生活環境の調整、家族やスタッフからの相談対応、尊厳を守り倫理的意思決定に対応できる。 3. 認知症ケアに関連する地域活動への参加や実践家との討論を通して、老年看護高度実践者としての役割、課題について述べるができる。 4. 認知症の看護について実践的研究課題について探究するプロセスを述べるができる。			
授業概要	学習課題に関する看護実践に関する文献購読、認知症当事者（本人・家族）の手記や講演録の視聴、認知症のアセスメントや評価法の演習、認知症ケアが行われている臨床の場の見学や地域活動への参加、認知症の診断治療およびケアの専門家との討議を中心にすすめる。			
授業計画	1	授業内容 授業形態：講義 学修課題：認知症ケアの歴史と展望 学修内容：認知症ケアの歴史、パーソン・センタード・ケア 備考：原		
	2-3	授業内容 授業形態：講義 学修課題：認知症の医学的基礎知識 学修内容： <ul style="list-style-type: none"> 認知症の定義 主な認知症の種類と病態生理（原因疾患を含む）および行動・精神心理症状 認知症の診断と治療 主な認知症の進行・経過・予後 備考：岡村		
	4	授業内容 授業形態：講義 学修課題：認知症とともに生きる共生社会 学修内容：認知症の人の尊厳の保持、自立支援について考える 備考：原		
	5-6	授業内容 授業形態：講義 学修課題：高齢者の包括的アセスメント 学修内容：アセスメントツール、認知症ケアパスとその活用方法 行動・心理症状の理解とケア 学習内容：認知症の行動・心理症状（BPSD）の理解とケア 備考：原		
	7	授業内容 授業形態：講義 学修課題：認知症の非薬物療法① 学修内容： <ul style="list-style-type: none"> 認知症の人とのコミュニケーション技法 ユマニチュード、バリデーションなど 		

	8	備考： 原 授業内容 形態： 講義 学修課題： 認知症の非薬物療法② 学修内容： ・心理療法・回想法 備考： 松田
	9	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 認知症の非薬物療法③ 学修内容： ・音楽療法 備考： 高橋
	10	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 認知症高齢者のケア倫理 学修内容： 認知症高齢者と介護家族のケア上、生じやすい倫理的問題とその専門的対応 備考： 原，小長谷
	11	授業内容 授業形態： 演習（フィールドワーク） 学修課題： 認知症高齢者を支える地域活動（インフォーマルサービス） 学修内容： 認知症の人と家族に関するピア活動への参加 備考： 原
	12-13	授業内容 授業形態： 演習（フィールドワーク） 学修課題： 認知症高齢者を支える地域活動 学修内容： 認知症ケアに関連する勉強会・研修会・研究会・認知症の人と家族に関するピア活動への参加 備考： 田中
	14	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 認知症高齢者を介護する家族支援 学修内容： 家族会の役割と活動，看護の関わり 備考： 田中
	15	授業内容 授業形態： 講義 演習 学修課題： 認知症終末期における専門的看護支援 学修内容： 終末期に生じやすい問題と認知症の人と家族の支援 備考： 原，小長谷
事前・事後学習	事前学修：既修の認知症の看護を振り返って授業に臨む。 事後学修：各回講義資料に次回講義までの事前学修課題を指示する。	
評価方法、評価基準	到達目標1〜4に対する右記の評価を行う。フィールドワークの成果：25%×2，授業（討議）への貢献度：50%より評価する。	
テキスト	最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せず授業内で案内する。	
参考図書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・トム・キットウッド著/高橋誠一訳（2005）：認知症のパーソンセンタードケア，簡井書房。 ・日本神経学会監修（2018）：認知症疾患治療ガイドライン，医学書院。 ・山口晴保編著（2010）：認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント・快一徹！脳活性化リハビリテーションで進行を防ごう，協同医書出版社。 ・黒川由紀子（2014）：認知症と回想法，金剛出版。 ・堀内園子著（2008）：認知症看護入門・誠実さと笑いと確かな技術で包む世界，ライフサポート社。 ・成本迅（2016）：認知症の人の医療選択と意思決定支援，クリエイツかもがわ。 ・イブ・ジネスト，ロゼット・マレスコッティ著，本田美智子監修（2014）：Humanitude ユマニチュード「老いの介護の画期的な書」，（株）トライアリスト東京。 ・村井淳志（2000）：重度痴呆性老人のケア・終末期をどう支えるか，医学書院。 ・（DVD）ビッキー・デクラーク・ルビン，公認日本バリデーション協会監修（2009）：見当識障害のあるお年寄りとの新たなコミュニケーション法・バリデーション法，簡井書房。 ・既習の科目で紹介した参考図書 	
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習および演習は，ゼミ形式（学習の課題・内容を事前に調べ，授業では発表・討議）で進める。 ＊授業の詳細は，初回開講時にガイダンスする。 	
教員からのメッセージ	認知症の本人の思い，本人支援，認知症フレンドリー社会の構築，家族支援・教育などについて現場での実際を踏まえ，より良い実践のあり方について討論していきたいと思います。老年看護高度実践者としての役割や課題を見出し，自己の課題を明確にできることを期待しています。	
オフィスアワー	随時（メール調整）	